

アートギャラリーミヤウチの学芸員が WEB マガジンの取材を受けました

2025/ 6/ 9

文化系の WEB マガジン『+5』（プラスファイブ）にて、アートギャラリーミヤウチの今井学芸員が取材を受けた記事が掲載されました。

2000 年代以降の広島におけるアートの活動について、広島市現代美術館の学芸員、尾道市立大学の教授、アーティストの方と一緒に取材を受けました。

「広島でこういうアートの活動があったんだなあ」と思えるような、まとめられた記事になっております。お時間のある時に是非ご覧いただけますと幸いです。

(前編) <https://p5.art360.place/articles/localartplus-hiroshima>

(後編) <https://p5.art360.place/articles/localartplus-hiroshima2>



広島アートプロジェクト (HAP) 2010年
学芸員がプロジェク・リーダーとして関わった展示で、アートセンター機能を屋外にイメージしたもの。

今井：旧日本銀行広島支店はこれまでこそ被爆建物としての印象が強いですが、そもそも旧有銀行の支店機能を持つ場所でした。そこを舞台に、「国家と貨幣」というテーマを掲げ、国内外のアーティストを招いて企画を展開するさまは刺激的でした。

当時、大学の外の人たもつながる機会が少なかったことが印象に残っています。そんななか、このプロジェクトには総勢70名くらいのアーティストが参加しており、私にとっては大学以外のアーティストと関わるはとんど初めての機会でした。また当時広島市現代美術館の学芸員の神谷さんも確か2008年から実行委員のおひとりだったので、美術館の方とのつながりもそこで初めて生まれました。